

大田区自立支援協議会だよい

第21号

令和7年11月発行

【編集・発行】大田区自立支援協議会

【事務局】大田区立障がい者総合サポートセンター

【電話】03-5728-9134 【FAX】03-5728-9136

TOPICS

令和7・8年度始動！専門部会を紹介します♪

相談支援部会 名倉部会長



「意思決定支援」は、相談支援部会にとっても根本となる概念です。決定するためには、本人の意思形成が大切になり、また、その材料（＝情報など）をいかに保障していくのかも大事になります。名川会長のお話を聞き、本人を置き去りにせず、決定することを求めすぎず、決められない、決めないことも含め、本人を支援していくこと、本人の言葉を大事にして対話を重ねていくことの大切さを改めて学びました。

今年度の相談支援部会では、学齢期の子どもにスポットを当て、改めて連携について考えていく予定です。子どもの意思をどのように育み、その決定を支援していくのかを考えながら、議論を進めていきたいと考えています。

地域生活部会 伊藤部会長



令和5・6年度の地域生活部会では、情報収集に関するアンケート調査を行ったり、部会の委員がそれぞれの立場でスピーカーとなり、ライフステージごとの「人」を介した情報取得や障がいの理解啓発の動きを確認してきました。

これに引き続き、令和7・8年度では、地域生活支援拠点が大田区の障害福祉計画の中でどのような仕組みとなっているかを確認しながら、大田区としての地域生活支援拠点の5つの機能に関して課題を抽出し、中間報告に向けてまとめていければと思っています。令和8年度は、親なきあとに起こりやすいセルフネグレクトについて、前年の検討内容を活かしながらテーマとして取り扱う予定です。

防災・あんしん部会 志村部会長



2010年、「さらに部会を設置しよう」という動きがあり、「災害時対応であれば、みなが同じ立ち位置で地域を考えられるのでは」と、「防災部会」を設置しました。その後の台風水害や、コロナ禍による生活の変化を受けながら、障がいのある人たちの災害時対応に関して学び、取り組み続けてきました。そしてまた、当事者委員を中心に、その権利擁護を考えることができないかと、「防災・あんしん部会」として現在に至ります。障害者とその家族はもとより、支援者、地域活動に取り組まれる方々、様々な立場にあるメンバーにより動き続けています。積み重ねはもとより、新たな取り組みにも挑戦してまいります。



令和7・8年度の大田区自立支援協議会は、共通のテーマを設定して各活動を行っていきます。

5月7日に行われた令和7・8年度大田区自立支援協議会第一回本会において、今期の協議会では「**意思決定支援**」を共通テーマとして取組んでいくことが了承されました。

大田区障がい者施策推進プランの基本理念は、「障がい者が、地域で自分らしく、安心して暮らせるまちをつくります」となっています。この基本理念は、「障がい者が住み慣れた地域で必要とするサービスを自分の意思により選択し、自分の個性や強みを活かしながら社会活動や経済活動に参加し、安心して暮らせる包摂型の社会を目指して設定した」とされており、「誰かに決められる」のではなく、「自分で選ぶ」ことを前提としています。また、大田区自立支援協議会設置要綱第1条に規定されている「障害者及び障害児の地域における自立した生活を支援する」という協議会の目的を実現するためにも、「自分で選ぶ」ことへの支援は欠かせないという考え方から、「**意思決定支援**」を共通テーマとして設定させていただきました。

合同部会 開催概要

【日 時】 令和7年7月16日（水） 14:00～16:30

【会 場】 大田区立障がい者総合サポートセンター 5階多目的室

【内 容】

1.いわゆる「意思決定支援」のポイント、振り返り

名川会長を講師に、「意思決定支援」のポイントについて講義をしていただきました。

2.シンポジウム

登壇者：名川会長、名倉相談支援部会長、伊藤地域生活部会長、志村防災・あんしん部会長

①本人意思尊重を基盤とした対話（コミュニケーション）②権利擁護 について各部会としてどう考えるか、という内容で名川会長と各部会長で話ををしていただきました。

3.各部会でのグループワーク

講義とシンポジウムを受けて、部会ごとに意見交換を行いました。

【参加者】 大田区自立支援協議会委員（専門部会のみ委員含む） 38名

合同部会に参加した委員から感想が届いています

『意思決定支援』の講義を受講させていただきました。受講後に各グループに分かれ、意思決定支援について意見交換をしました。相談の現場だけでなく、学校、医療、介護等の現場からの思いを聞け、大変勉強になりました。また、顔を合わせて話すことでの繋がりが持て、色々な分野との連携の第一歩だと感じました。

【相談支援部会 西山委員】

名川会長の「あなたのことを探りたいという態度が必要」という言葉に、意思決定支援の本質を改めて考えさせられました。

本人の意思を尊重し、日々の関わりの中で伝える機会を設けることの重要性を実感しました。

聞き取り方法の工夫も欠かせないと感じました。

【地域生活部会 長崎委員】

話すことができず、問い合わせを理解できているのか確実ではない我が子にとって、意思決定支援はとても重要な課題だと思っており、名川先生の言葉からたくさん気づかされました。

我が子のような人たちのことも、知りたがって面白がって対話を重ねていってくれる方々が一人でも多く増え、心のつながりによってこの先の生活がより充実したものになるよう願ってやみません。

【防災・あんしん部会 蛭子委員】